

いじめの早期対応に関する研修 校内研修 I

【ねらい】

A先生のいじめの早期対応事例を通して、「いじめの捉え方」を見直し、児童生徒や保護者の気持ちに寄り添った、教育相談の在り方を考える。

場面 I : 保護者からの相談



学校で何かあったのですか？



特にトラブルがあったようには  
思いません。いつも元気なB子  
さんなので心配はいらないと  
思いますが、念のため話を聞いて  
みます。

【A先生の課題】



Q：あなたなら、B子の母親からの相談に対して、どのように話をしますか？



場面 II : B子との教育相談



...



話をしてくれないと、分からないよ。

【心掛けたらよいこと】



Q：あなたなら、沈黙しているB子に対して、どのように声を掛けますか？



場面Ⅰ：保護者からの相談



学校で何かあったのですか？



特にトラブルがあったようには  
思いません。いつも元気なB子  
さんなので心配はいらないと  
思いますが、念のため話を聞いて  
みます。

【課題点】

- 保護者のつらい気持ちや不安な気持ちを共感的に受け止めていない。
- 「心配はிரらない」「念のため」などと、先入観を持って対応している。

など



Q：あなたなら、B子の保護者からの相談に対してどのように話をしますか。

(例) そうでしたか。御心配をお掛けして、申し訳ございませんでした。私の方から、Bさんに声を掛けてみます。(その上で、今日のB子さんの様子や今後のことについて、改めて御相談したいと思います。放課後、お宅に伺いたいと思うのですが、御都合はいかがでしょう。)



場面Ⅱ：B子との教育相談



話をしてくれないと、分からないよ。

【心掛けたらよいこと】

- B子のつらい気持ちに寄り添う。
- B子が沈黙しているのは、どんな思いがあるから話せないのかを想像する。
- 話し手のペースに合わせる。

など



Q：あなたなら、沈黙しているB子に対して、どのように声を掛けますか？

(例) 本当につらかったんだね。B子さんにはつらい思いをさせてしまっでごめんね。もうこれ以上、つらい思いをさせたくない。だから、何がそんなに悲しいのか、教えてくれないかな？ ゆっくり話を聴くよ。(どんなことがあったの？)

※いじめの内容を話すことはとてもつらいことだと理解した上で、話が途切れても急かさない。

